



海洋教育ネットワーク通信 NO.16 2018年9月3日



8月24日(金)は、観音崎自然博物館で、「科学喫茶」。いつもお世話に なっている山田学芸部長が司会で、パネラーが、これもお世話になっている、

東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センタ ーの田中隼人さん、ということで、三浦市から5人 が参加してきました。

田中さんは、海岸の砂の間に住む間隙生物の研究の専門家で、特に貝形虫(貝のよ うな殻にエビのようなものが入っているらしい)の研究をしています。たいへん小さ な生き物なので、その解剖の道具も針金をやすりでひたすら削って作るそうです。



8月27日(月)は、小網代湾の胴網海岸で、中学生対象に「海の教室」を開催 しました。

これは、本研究所が主催したもので、テーマは「海のアクティビティ」、15名の 生徒が参加しました。海洋教育の4つの柱のうち、「海を知る」「海に親しむ」こと に重点をおいたものです。



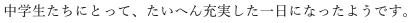


最初に、SUPに挑戦。インストラクターの方の指導

で、沖に出ます。波も静かで、絶好のコンディションでした。ほとんどの子ども が初めての体験でしたが、全員が立って漕ぐことに成功し、横堀海岸沖までの往 復を楽しみました。

続いて、磯釣りに挑戦しました。はじめは、えさの イソメがさわれず、大騒ぎしていた女子たちも、最後

には、平気で触れるようになりました。専門家の指導で、ベラやクサフグ、トラギ スなどを釣り上げていきます。海の透明度が高く、熱帯魚のような青や黄色の魚が えさに群がる様子もよく見えました。



参加した子どもたちの感想を紹介します。



- ・釣りで、いろいろな魚を獲ったり、エサを付けたりするのが楽しかった
- ・お魚が2匹釣れてうれしかった/初めてSUPが体験できてうれしかった
- SUPで、自分で進んでいる感覚が楽しかった
- ・釣りやSUPなど、めったにできない体験をさせてもらい、良い経験になった/せ っかく三浦市民なので、今後もたくさん海と触れ合って行きたいと思った

・今回の体験で、改めて三浦の良さを知った/このような企画を、自分のように、あ まり気にかけていない地元の人にも知れわたるようにしてほしい

